

テーマパークのような広大さ／船上で／一軒家借り切り…

関西の挙式場 ブライダル争奪戦



挙式スタイルが多様化している。関西では、テーマパークのような広大なウェディング施設などが新設されたり、一軒家を借り切って小人数で楽しむハウスウェディングが人気を集めるなど、新しい提案が次々と人気を集めている。半面、挙式件数は減少傾向で市場の広がりには期待できない。パリの奪い合いで競争は年々激化している。

(武部由香里)

生き残りかけ新提案相次ぐ

今年四月、大阪・南港(大阪市住之江区)に一万八千平方メートルという巨大な挙式施設「アートグレイス・ウェディングコースト」が誕生した。婚礼カッパルと両親が招待客をもてなす「ゲストハウス・ウェディング」という挙式スタイル。現在、六百件近くが成約するほどの人気だ。運営するベストブライダルは「当初

計画では初年度四百件で上出来と思っていたが予想を大幅に超える人気があった」という。来年度は八百件を見込む。一方、滋賀・大津港から琵琶湖の観光船を借り切る船上挙式も、地元だけではなく、大阪や神戸など、県外のカッパルが増える傾向にあるという。ほかにガーデンウェディング、リゾートウェディングカッパルにとっては選

ワタベウェディングは二十四日、大阪市中央区のOBP(大阪ビジネスパーク)のIMP内に今年十二月、挙式、披露宴施設を新設することを明らかにした。「都市型リゾートウェディング」という新しい概念を提案していく。

名称は「ワナファンガ

ワタベウェディング IMP内に新設

「デン」。チャペルやパインケット(宴会場)を備え、広さは約千五百平方メートル。一階はメインバンケット、二階はテラスと小バンケット、屋上の三階がチャペルとなっている。一、二階は、披露宴がチャペルと一体化している。森田恭通氏がそれぞれ手分け、三社の共同プロジェクトとして営業する。メニューによる。OBPは、大阪城公園ある施設にするという。

ビジネス街で披露宴いかが

拮据が広がっている。そのため、業界側は、マンネリ化した途端、そっぽを向かれる危険に脅かされている。

ホテル挙式もサービスなどを充実させて生き残りに必死だ。ホテルニューオータニ大阪(大阪市中央区)では、銅版画家の山本容子さんプロデュースの挙式、披露宴を実施。今年度はなんと前年度並みの挙式件数を維持する見込みだ。

関西ゼクシィ副編集長の馬弓良輔さんは「十年前をありきたりのウェディングとすると、その後『安くてお得な結婚式』、『人とは違うオリジナルウェディング』、『二人よがりでないおもてなし婚』と変遷し、最近では、おもてなしを充実しつつも自分たちも楽しめるアットホームなウェディングになっている」と指摘。生き残るためには時代を先取りした新しい提案をし続けるしかないようだ。



ホテルニューオータニ大阪で行っている銅版画家、山本容子さんプロデュースの披露宴。多様化するニーズに合わせて、新提案が求められている。